

3年 学年だより



# すばる

大阪市立築港中学校

第 27 号

平成 27 年 11 月 20 日発行

## 2学期末テスト 10日前！…実力テストとは切りかえて



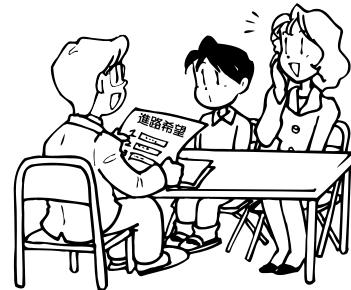
30日（月）から2学期末テストです。昨日、第3回実力テストの答案が返却されました。実力テストに苦戦している人も多いと思いますが、それはそれとしてひとまず置いて、範囲のある期末テストに気持ちを切りかえ、全力で取り組んでください。

定期テストは、日ごろ授業で学習したことがそのまま出題されます。どれだけ授業中の先生の説明やノート・ワーク・プリントをがんばったのかが、そのまま表れます。実力テストよりやっただけ目に見えて点数に直結するのでがんばりましょう！！



## 進路懇談では気をつけて！

20日（金）の進路懇談で大切なことは、先週第26号の「すばる」で書きましたが、もうひとつ気をつけて欲しいことがあります。それは、



### ①本人と保護者の意見は、食い違ってもいいから、家で話し合ってから懇談に来ること！

→懇談の時間は限られています。家で必ず話し合ってから懇談に臨んでください。

本人と保護者が話し合っていなかったために、たまに言い合いになることがあります。

懇談の場では、心を開いて素直に話ができるよう、日頃からよく話し合っておいてください。

### ②担任には、細かな（小さな）ことでも、考えていることを全て話すこと！

→単に学校名を決めるということでなく、高校進学の先の職業選択も見据えていろいろな可能性を担任と相談してください。担任は、「進路委員会」という会議で校長先生をはじめたくさんの先生方と皆さん一人ひとりの進路を検討します。そのため、「考えていること、やりたいこと、好きなこと、できること、得意なこと…」など、担任にちゃんと話してください。

今日の成果は過去の努力の結果であり、  
未来はこれから努力で決まる



### 来週の予定

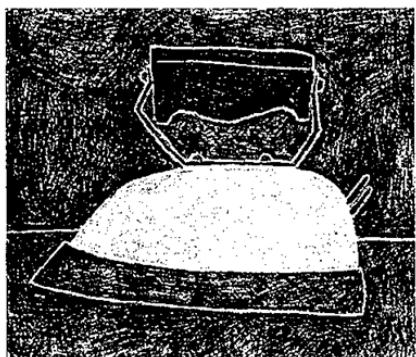


- 20日（金）～27日（金）午後 進路懇談（三者懇談）開始  
21日（土）土曜授業（東京混声合唱団）  
25日（水）1,2,3限 スケート教室② 特別時間割  
27日（金）5,6限 家庭科特別授業（建築）

# 新・心のサプリ

## 海原純子

以前、こんな逸話を読んだことがある。確か南米の作家の作品集だったと思う。サーカスで芸をする象がサーカス小屋の裏につながれている。巨体が細い鎖で柵にくくりつけられているのをみた少年は不思議でたまらない。ちょっと力を出せば鎖はごく簡単に切れて、象はたやすくサーカス小屋から逃げられそうなのだ。そこで少年は父親にどうして象は逃げようとしているのだろう、と質問した。父親はその理由を少年に答えるのだった。象は多分とても小さいころつれてこられて鎖につながれたのだろう。その時は何度も鎖をひっぱり逃げようとしたに違ない



題字・イラスト 北村人

ない。ところが鎖はびくともしない。象は次第にあきらめるようになってしまいます。体が大きくなつて鎖を引きちぎるだけ強くなつても、「自分はダメ」と思って、心をしぶる鎖につけなくなつたのだろう、と。

私はこの逸話をさまざまな場面で思い出す。そして人の心の中の鎖について考えてしまうのだ。先日、ノーベル賞を受賞したことになったお二人の日本人が地方大学出身であり、世間でいわれるような「国立一期校出身でなければ業績は難しい」

というレッテルに影響されず研究を受けた素晴らしさについて触れたが、それでも「あの二人は特殊な人であり、自分には可能性がない」とつぶやく声をきいたので、心をしぶる鎖についてますますその強さを感じた。

「努力すれば何でもできるわけではない。やってみてうまくいかない」とがっかりする。そんな思いをするのを想像するだけで嫌な気分になるのだ。しかし心の鎖、「自分はダメ、力がない。だからやつてもうまくいかないだろう」という思いから自由になると、少なくとも自分の可能性は大きく広がっていくはずである。

心の鎖にはさまざまな種類がある。自分の体や姿勢、能力などで自分はダメ、いいところがない、劣っている、などと思いこむ。そうした鎖を全くもたづくことによって「特別な人」なのだ。その特別な自分の可能性を封印せずに生かすのが、大人なのだと思います。みなそれぞれ自分をしば

る鎖をもっているものだ。そして、何となく生きにくさを感じる時は、その鎖に気づいた時なのだと思う。「こうしてみたいだ」と思う一方で、「でもそんなことをやっても意味がない」という考え方や「自分にはムリ」という思いが浮かんで葛藤状態に陥った時は、心をしぶる鎖をはずして一步ふみ出したいという時期なのだ。その時期に、体の症状がサインとして表れることがしばしばである。そのサインが語るものに耳を傾けることは、自分の新しい可能性にむきあうことである。

二十歳が成人とされている。しかし、私は心の面での成人は自分の心をしぶる鎖から自由になつた時からだとと思っている。「あの人だけは特別」なのではない。みな一人一人が社会にとつて「特別な人」なのだ。その特別な自分の可能性を封印せず

過日、ノーベル賞を受賞したお二人は、世間の常識にとらわれず自分を信じて努力された方々です。努力しないで自分の力を過信するのは論外だが、「自分にはムリ」とあきらめて可能性にふたをするのも残念なことです。

## 今日の成績は過去の努力の結果であり、未来はこれからの努力で決まる